磐城商工時報

石城現勢號

月三回發行五十五、五日
發行兼編輯人印人　渡邊源吉
福島縣平田町二地番
發行所　磐城商工時報社
廣告料五號活字詰一行廿錢場所指定拾錢增
新聞定價　一ヶ年一円六十錢　一ヶ月五錢　一部金五錢

自然の恩惠に浴す

古來より本郡は文教地として知らる

明治二十八年日本鐵道布設され工場、會社としてはてより平町の發展は逐年向上し東部電力株式會社平營業所、更に大正六年磐越東線延長さる製氷株式會社、平運輸株式會社、ゝや平町の繁華は益々知られ將片倉磐城製糸株式會社、堀江工に大平市建設の基礎を造るに至業株式會社、磐城建物株式會社つたのである。平電力株式會社、磐城製菓株式會社、磐城勸業株式會社、好間軌通株式會社、平屠場株式會社平造林株式會社、山崎合名會社合名會社三井呉服店、合名會社丸山組、合名會社白澤商店、平代表商店釜屋。

豐産無比

の磐城炭は殆んど全國に搬出され一躍炭坑の石城として天下に其名を知られたのである。入山炭礦を始めとして磐城、古河、小田、萩原福島の各炭礦の外幾多の群小炭礦存在して石城の經濟を支配するもの決して少くない。

平町は本郡の中心都會として面積東西二十五丁、南北十九丁、人口年々增加し昭和七年現在人口三萬、戸數五千に達してゐる各官衙としては平町役場、平町職業紹介所、平區裁判所、福島地方裁判所平支部、平稅務署、平營林署、平警察署、福島刑務所平支所、永戸地方專賣局平出張所、平郵便局、平驛、平機關庫、福島縣平土木監督所、福島縣平穀物檢査所等あり。

福島縣農工銀行平支店、常磐銀行平支店、七十七銀行平支店、信用組合平庶民金庫、磐城無盡商會、郡山無盡商會がある。

更に教育機關は縣下に比類なく完備し、縣立磐城中學校は明治二十九年建設以來毎年生徒數が增加し現在では學級數の多い事で全國に有名である。其他磐城高等女學校、平商業學校、私立磐城佑賢學舍、同磐城青年學校、磐城訓盲院、平第一、二、三小學校、平陽實科女學校、藤田裁縫女學校等ありて石城文化の向上に貢獻する点尠なからず、生産方面を見れば、生糸、眞綿、地縞木綿、打綿、複製綿、木、炭雨傘、下駄、皮細工、弓、矢、菓子類、サイダー、ラムネ、清酒、醤油、味噌、饂飩、竹行李白煉瓦、米、雜穀等である。

地方に知られる磐城の名所舊蹟

交通機關の完備と向上して行く磐城地方。

鹽屋崎燈臺　これに依つて豐間村の存在は認められてきたが、大敷網事業が行はれてから豐間海岸は一躍天下に知られてきたのである。豐間浦の風光は遠く東京方面にも知られてきた。

小名濱町　平小鐵道の實現、商港完成の日も近く同町の繁華が思ひやられる。

四倉町　多年の宿望報ひられ築港費四十二萬餘の豫算を以て去月より工事に着手した、完成の上は商港として非常な繁榮を見るであらう。

新舞子　大浦村仁井田海岸地帶の總稱にして東日の日本百景中に當選した名勝地である。白砂雪の如く、翠松林をなす、往時平城主安藤侯は此の地に莊を營み風光を愛でたといふ。

勿來關趾　郡南にある勿來町にあり、茨城縣と境す。奥州街道の要路として知られ、殊に源義家奥州征伐の歸途此の關の落花に感懷を述べたといふので有名である。勿來驛より山を登ると十町にして達す、老樹鬱蒼として枝を交ひ櫻樹が多い。

湯本温泉　附近炭礦の堀鑿により温泉の涸渴を見るに至つて衰微の徵候があつたが、ポンプに依り揚湯し相當の設備を講じたので温浴には最も適してゐる、附近に入山炭礦あり。

關伽井嶽藥師　磐越東線赤井驛を去る一里餘（平町より約二里何れも自動車の便がある）關伽井嶽頂上にあり、海拔二千四百尺、夙に靈驗の顯赫を以て磐城の成田山と稱せられ遠近の善男善女に知らる、龍燈の奇跡は古來著名である。大僧正旭純榮氏の管掌。

磐城富士　一名絹谷富士ともいふ。平を去る北方二里草野村絹谷にあり、山勢宛ら芙蓉に似たるを以てその名あり。

長友地藏堂　平を離る北約二里、大浦村長友長隆寺境内にあり（平より自動車の便あり）

白水阿彌陀堂　永暦元年眞享三年七月此地に安置したるものである、木像一軀（六尺）は明治四十年國寶に編入せられ製作頗る優秀稀に見る所で靈驗顯赫を以て櫻樹と共に遠近に知られて居る。名僧吉田純祐氏の管掌。

▲磐城炭礦株式會社　資本金壹千七拾五萬圓、出炭年額壹百萬噸、鑛區面積六千八百六拾萬坪を有する一大會社にして常磐地方總出炭の約四割は同社の採掘に係るものなり。礦業所を石城郡内郷村綴に置き、所長菅原萬次郎氏。

▲入山採炭株式會社　明治二十八年の創立にして逐年增資擴張以て今日に至る、礦區壹千五百萬坪、川平、湯本、廣野にわたり採炭年額五拾万噸、其數に於ては第二位にあるも本社は地の利を占め優秀なる炭田を有するを以て炭質に於ては常磐炭中最高位にあるを誇りとなす、礦務所を湯本町に置く。所長吉田宗雄氏。

▲古河鑛業株式會社　資本金二千二百五拾萬圓、男爵古河虎之助氏を社長に戴ける大會社にして鑛業所を好間村に置く、大正四年六月好間炭礦株式會社を買收し一時は頗る廣範圍なる礦區を有せしも近時縮小し現在面積三百萬坪、採炭年額參拾萬噸。所長下野十郎氏。

▲小田炭礦株式會社　萩原礦業所、本社は元小田吉治氏社長經營に係るものなるを同氏去りて後萩原申八氏繼承社長の任を帶ぶ、本社の礦區は地質炭層、炭質共に總て優良と云ふを得ず頗る難礦と稱せらるゝも萩原氏の熱誠能く之を支持し過誤なき好成績を修めつゝあり。出炭年額二十萬噸

▲好間炭礦　此の三炭礦は

▲隅田川炭礦　立志傳中の人

▲津川炭礦　小田吉治氏個人經營にして各坑共相俟つて年額二十萬噸の出炭個人經營にして氏の右に出るものなき優勢なり。

石城郡町村長會
石城郡銀行組合
小田吉治　好間村
古河鑛業株式會社　好間鑛業所　好間村
入山採炭株式會社　湯本礦務所